

専門部から

5.

学
術
部



常任理事・学術部長
渡辺直樹

1. はじめに

学術部は、昭和22年の新生医師会誕生と同時に設置された最も古い専門部の一つである。当時、新生医師会が揚げた14の事業中、4)医学の振興、5)医育の整備および6)医師の補習教育に関する3項目が会務分担されていた。事業内容は時代とともに若干変化したもの、学術団体としての北海道医師会における重要性に変わりはない。担当事務局は、事業第四課である。本稿では、学術部の主な事業について紹介する。

2. 日本医師会生涯教育講座および北海道医師会認定生涯教育講座の開催

(1) 直轄講座

学術部の直轄講座として、講義と演習を組み合わせて2日間で行うリカレント教育「集中コース」があり、平成15年からは「BLS・気道確保とAED」のテーマで開催されている。

受講料を徴収して開催する本講座は、他の都府県にない内容であり日本医師会でも高い評価を得ている。また、平成7年からは在宅医療推進財団、平成12年からは北海道のそれぞれ委託で、「在宅医療推進実施研修事業」として3時間の講座を行っている。昨年は「認知症」、本年は「終末期医療」をテーマに予定されている。これら直轄講座成功の裏には、北海道の地域特性に加え、大学関係を始めとする講師陣の半ば献身的な協力があり、この場を借りて深謝したい。

(2) 日本医師会生涯教育協力講座

日本医師会では生涯教育のさらなる推進を図るため、平成16年度から協賛会社と共催で実施する「日本医師会生涯教育協力講座」を開始した。その一つは「脳・心血管疾患講座」で、平成16年から18年度にかけ、都道府県医師会で計5回開催する大規模プロジェクトである。北海道医師会では、これまで「高血圧の診療ー最近のトピックスー」、「心不全を識る・診る・治す」、「糖尿病と心血管病」を開催した。本年度末までに、「脳血管障害の診療」と「不整脈」の2テーマを行うことになっている。もう一つは「慢性呼吸器疾患講座」で、本年3月に「喘息（成人）」をテーマに実施した。また、19年度末までに「精神・心身医学的疾患講座」を1回開催する予定である。

(3) 郡市医師会および全道規模専門医会が単独で主催する講座への助成

郡市医師会や専門医会が、製薬メーカー等の援助を受けずに単独で実施する日本医師会

生涯教育講座および北海道医師会認定生涯教育講座に対し、基準内規に従い審査後、助成金を交付している。本助成は、学術振興を目指すものであり、幅広い会員が参加できる斬新な企画の応募を期待している。

(4) 郡市医師会など各種団体主催講座の認定と受講証の発行

北海道医師会および各郡市医師会が主催する「日本医師会生涯教育講座」と、専門医会、学会、各種研究団体・サークルや製薬メーカーが行う「北海道医師会認定生涯教育講座」を、当会の実施要綱に従い審査、認定し、単位を授与している。

道内で開催される認定講座は年々増加しており、昨年（平成17年度）は1,683回に及んでいる。北海道医師会および郡市医師会が主催する「日本医師会生涯教育講座」が5単位、「北海道医師会認定生涯教育講座」が3単位である。また、高齢や遠隔などの理由で参加が難しい会員のため、後述する生涯教育シリーズの合本内にある綴じ込み設問への回答で単位を授与する、セルフアセスメント方式などを行っている。承認した講座は全てデータ処理し、会員の参加状況などを管理している。年度終了後、会員の研修内容を証明する「受講証」を発行し、同時に単位数を日本医師会へ一括申告している。日本医師会はこれを受け、年間10単位以上取得の会員に対し「終了証」を、3年間継続した場合には「認定証」を、それぞれ発行している。

3. 自宅学習環境の整備および評価事業

全ての会員に研修機会を保障するため、北海道医報に生涯教育シリーズを連載し、終了毎に合本の形で配布している。合本は、昭和27年2月28日の「受胎調節の実際」に始まり、現在、第45篇「感染症」が発行準備中である。さらに、生涯教育用ビデオの整備と貸出しを行っている。

4. 学会および教育・研究機関との連携

(1) 医学会開催に対する助成

道内で開催される医学会で、当会に助成金交付申請があったものに対し、一定の基準で助成金を交付している。

(2) 道内三大学病院研修登録医（臨床登録医）制度への協力

平成元年、当時の文部省が大学病院と地域開業医との連携および地域医療の発展に寄与することを目的に作った「研修登録医の受入れ制度」へ対応し、北海道医師会では希望す

る会員を各大学病院に紹介している。

(3) 新医師臨床研修制度への協力、指導医ワークショップの開催

平成16年4月より開始された「新医師臨床研修制度」が円滑に遂行できるよう、北海道、厚生労働省北海道厚生局、道内関係団体や臨床研修病院とともに「北海道臨床研修病院等連絡協議会」を組織し、合同プレゼンテーションや説明会などを行っている。

また、道内臨床研修指定病院の指導医を対象に、2日間にわたる「指導医のための教育ワークショップ」を年1回開催している。これまで4回実施しており、参加者には厚生労働省から修了証が交付されている。

5. 北海道医学大会の開催

北海道医学大会は、他の都府県ではみられない極めてユニークな事業である。本大会は、三大学（当番大学会頭1名、副会頭2名、幹事各大学4名）と北海道医師会学術部（管掌副会長が副会頭、学術部担当役員が幹事）ならびに開催地医師会会長を構成員とする「幹事会」と、分科会として参加する学会地方会の会長・幹事を構成員とする「連絡協議会」を中心に運営されている。分科会は年々増加し、平成18年度には40分科会に達している。例年、9月初旬から11月中旬までの各週末に開催されており、北海道医師会は、本大会の事務局として重要な役割を担っている。また、総会（9月の最終土曜日）の開催や各分科会におけるプログラム作製の補助などに1,000万円規模の予算措置をしており、北海道医師会が勤務医会員を支援する上で最も重要な事業の一つである。

6. 北海道医師会賞の贈呈

会員の医学的研究を奨励するため、昭和25年度から「北海道医師会賞」の贈呈をしている。また、受賞者には、昭和45年度より「北海道知事賞」も贈られている。

7. おわりに

医療を取り巻く状況の急激な変化に伴い、医師の生涯教育に関する要求度も年々高まっている。社会の期待に応えるには、医師や医師会自らが、生涯教育の質と量および倫理面における自浄作用を担保しなければならない。そのためにも、学術部が担う役割は極めて大きい。今後とも、会員各位の御指導およびご叱正を、お願いする次第である。